

## 産業廃棄物の削減

リデュース・リサイクルを進め、有価物の売却が増えました。産業廃棄物を適切に管理しています。

2012年度は、廃溶剤、金属や廃触媒などの有効利用により3,024トンの有価物として売却しました(前年比、626トン増加)。

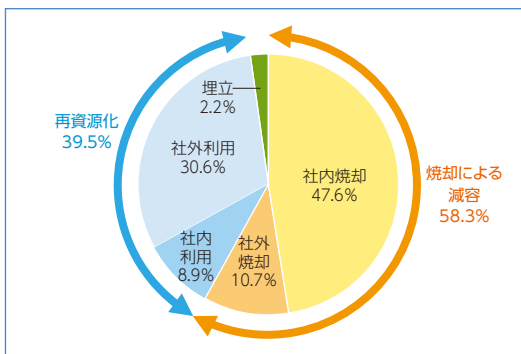
また、次のように産業廃棄物の環境への排出削減に取り組みました。

- 廃棄物発生量の少ない製品に置換(リデュース【発生減少】)
- 廃溶剤は燃料利用、汚泥はセメント原料や堆肥として利用、樹脂粉は助燃剤として利用(リサイクル【再資源化】)

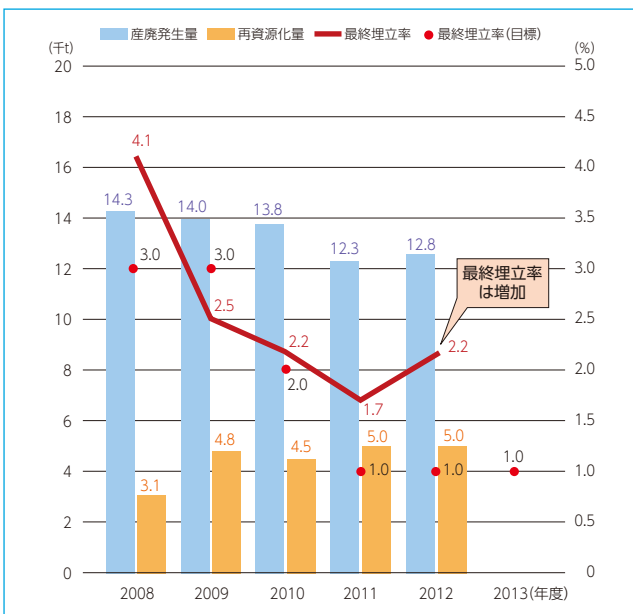
しかし、2012年度は最終埋立率が増加しました。

富士工場の油水分離槽の清掃(長年沈降した汚泥)によるものおよび小名浜工場の震災の影響(リサイクル先の被災で埋立へ変更したことをリサイクルに戻すことの遅れ)によるものです。

### 2012年度 産業廃棄物処理の内訳



### 産業廃棄物の推移



## Voice

### 産業廃棄物処理委託先の査察に参加して



研究所 開発推進部  
椎木 潤二

当社では廃棄物処理法に基づき、産業廃棄物処理委託先で廃棄物処理が適正におこなわれているかを確認するため、毎年査察をおこなっています。私は今回が初めての参加でしたが、多様な廃棄物を安全に効率よく処理し、できるだけ再利用しようとする努力がされており、大変勉強になりました。

これらの多大な労力(エネルギー・コスト・人的資源)が払われている現場を目の当たりにし、化学メーカーの責務として、できるだけ廃棄物を少なく、環境と再利用に配慮した製品開発をおこなう重要性を改めて感じています。

## PCB廃棄物の管理

荒川化学グループでは、PCB含有トランスなどの電気機器を「廃棄物処理法」に従って適正に保管・管理しています。また、「PCB処理特別措置法」に基づくPCB廃棄物の処理計画に沿って、適切に処理を進めていきます。

## 土壌汚染対策

荒川化学グループの工場では、「土壌汚染対策法」で規定する特定有害物質を使用しており適切に管理しています。

2012年度は土壌汚染対策法に関わる形質変更、売却などの事例は発生しませんでした。

## 環境に関わる事故

荒川化学グループでは、2012年度、環境に関わる事故は1件です。2013年1月に大阪工場で発煙がありました(P8特集参照)。

他に、2012年9月、富士工場で近隣住民より臭気の苦情があり富士市の立ち入り指導を受けました。原因は脱臭装置の不備で、再発防止策は完了しました。

環境関連の訴訟や環境関連法規制による処罰などはありませんでした。2013年度も環境関連の法律・条例などを遵守するとともに、環境保全活動をさらに徹底し、事故ゼロを目指していきます。